



水鏡

文化十

中村俊定文庫
文庫 18
977





此の如く
 種々の
 ありの如く
 ありの如く
 ありの如く
 ありの如く



為らばはる

しんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん
かきかきかきかきかきかきかきかき

ふしんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん

しんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん

信守の吉

雅重

しんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん



此種れお梅あちうに備あは後ういさち中に
有て市甲やとあれ村ああやうあてい
物あうあうしあう律養れあ偶あして
年うに四百此種あやあああああああ
ああああああああああああああああ
ああああああああああああああああ

漢水

ああああああああああああああああ

ああああああああああああああああ

茂良

ああああああああああああああああ

五芳

本編を門日と改ひたり

吳雄

中六秋のともひな船のあつたて

あふ

磯にさむとしようつは浪花

泰山

はりの巻をくさくさ秋と啼鶴

昌秋

あしに習書のおあつた

星衣

侍をつむとふお返りきて

月蓬

こゝ乃あつた交らまひたり

白六

すつと水乃流し標うけ

己鳴

火のつらぬお幸し御

机山

はつとまのりつ月と呼中ん

探舟

穂巻つらぬお念たり

石塔

為る方も衆ひのむ子ゆとあつ

東馬

海これぬゆとそこのる橋

三子竹

を掃と人れ終てきてあつた

雪雄

たつと花の御解りまのあつ

柯山

島山よりのおまのあつた

六壺

扇ひつげとあつた

執筆

右一頌

四季混雜

兼此名とくく字て忘れり
ふふり来てこまの蝶あり嵐山
う免柳「古代れるとて中しけり
夕紅紫子履ゆるもハ控何し
あや捨て病の家もあつ夏此月
水喜乃花子しみ入芙蓉系
夏粥此ゆる此朝やうみそきお
この山とくくく事とて梅椿

但生世 雅重
全 仙童
カタ、 文常
三井ち 子影
但て世 貞松
フシに 草阜
魚に 毒雄
カ、 眉山

大坂の人此多さよふろもく
約来乃様もまひア寺れ山

上冊よし

宮さゆし井ゆくぬきうなむは風
芥して行き遊れとくよ閑居も
日あつり此寸、なの下アうつせ貝
夜暖ア春ふと志あふ野田此里
みしう秋り牛れ野乃ゆのりり
藪入此そハりひきう下竹れり

イガ 櫻剛
ナニハ 宋壽
江 成美
ナニハ 扇若
、 香郷
但生世の 素石
丹八上林 卷来
レナ、 蕉雨

枯風下草戸巴と通ふ多し
月さむれと浪をさる火桶さ
ひらり指れふ恙をよみ存を

大江乃夕下りて

松あつた衣下くむ夕下り
髪孔毛子おけも指下と袖の秋
ときえ本をり代りけしなれ山
うらひすやかへるく夜華
山窓乃をさすくくるちまにか

ヨハリ
平舟

大ッ
石席

リ御
玉芳

まほ
如髪

他生の
百詔

丹上
白豹

上ト
青猿

リ御
崖嘯

正月や山家の秋を小燈灯
うそりて暮て見れハくそく橋
朽本さへ併りあるに生海嵐か
しそ月乃出ほりやうさ
浪舟下のきえくあき香柳に香
すしさ下松乃中を浪乃か
物おひあ子しほり雨に萩
てりくくり下大はれ時る寺
かひく下稀りあある併れ奥

アツ
の燈

他生の
森林女

兵ゴ
相栖

丹二内
李三

ハリ
玉屑

他生の
文解

丹サ
白松

丹サ
秋

滄洲

そり秋中晩夕の月乃さむ家
松一ゆけ隠え夏花むのほる
丸下下とあれうふれ花並り
妹ありと暮すうら一乃月夜
あれきけとつみえうらとほき
十花指折て見るさえけし花を
うそ乃ふれ月と見るそす日
ひくし下月と日花ある松北山
りさうと歌ゆめに笑し初らう

好山 佳生の
芳之 アツシ
升六 ナニハ
吉高 カ
南柯 丹上林
相咽 カヒ
有紀 丹上林
春畑 丹上林
標堂 イヨ

打先に暮る花なく二月家
ゆけハ山まの海とあり朝霧
何あさる枯野乃寸え斤夕う守
卯花花やううたさうり雪は
蒼ますと朝の月とん井とり
沢山ふりの人たうと花め
芥乃草花あは海とさうり
口いしゆらやうと乃冬
風やいふりまはうと果し

吐月 吐アハ
花行 花
きぬ キ
女潮 サカイ
無人 丹田
花船 丹田
お許 大ウ
甲高 大ウ
信原 おサカ

くく谷の三吟

お月ふたは葉の鳴くふりし

茂ら

とくく露れとく貝売

木鳴

物束れ琵琶おだん月消て

蕪良

ふんふんおぬせれおあり

ら

もくやと魚乃鳴するち月お

鳴

石葛子やるふんふん

蕪

萬日乃吉れおありと語ら

ら

ふんふんやふんふんおお

鳴

水もと松島の松白乃松

蕪

花子ら袖をたぬけおありし

ら

やう羽子乃のぼるおあり

鳴

價れとるいふと鳴らり

蕪

南子月お袖すわぬけおあり

ら

河らり芋子おありし

鳴

とくくおありおありし

蕪

一腰さるハ脚おありし

ら

不新く白子おありし

鳴

世のふれ合おゝ志なき子に
有るもよとあふとくれハ服乃
は〜と〜と文えんハ 亦
風さむ〜とひひ〜とさのゆや
ま〜と乃ととととととと
供部唐れもさの日はもととと
ま〜と〜と〜と〜と〜と
新交〜と〜と〜と〜と〜と
神〜と〜と〜と〜と〜と

鳴ら 暮 鳴ら 暮 鳴ら 暮 鳴ら 暮

あ〜と〜と〜と〜と〜と
望日乃命と答むお鳥
ま〜と〜と〜と〜と〜と
順化乃名と下さ〜と
きさの破のさつと程の〜
非れ格さ乃只奇事也
ら〜と〜と〜と〜と〜と
寸とれと〜と〜と〜と〜と
服子捨るものあり 花は春三月

鳴ら 暮 鳴ら 暮 鳴ら 暮 鳴ら 暮

嶽おさきる、集の海しきり

七

嶽

すこしうまあつて

焼の差のりあつてさうすうし

丹ハ大山 申凌

よりつせん月れおしある法あつた

丹上林 洪牛

かんほりやな馬引おさすえすう

丹中 如卓

六月乃若うつあつてまあつた

丹田 如卓

出つたりてさう路の里人を成りたり

丹 益一

口めくくくれりさうさうさう

丹 宇洋

いすもいひあつたおれ小家、那

丹二 不和

ちるさあつて障へはつても何しと

らら松

若室夜上

おもも手に舟老あつて後子なり

カヒ 嵐外

まじりておれつきく柳、那

エ何 若室

飛乃きくくくと仁玉れ眼、那

、 鳥山

子規こくくもおふし月若那

、 子規

え形可きけりうれうちに蚕のさう

エナ大草 亞碩

二月やはとくくくも水神

エ何 秋彦

おしうやあつた衣乃あつた

、 卓地

岸や雲低あたる風く
閑うて身罪つらひふか
けみ苗いつくあり人下
竹み子の恋し入梅を
市中にはいふに
さしつれ月乃解りて杜
花の時とあこむら
たる乃日や毎の
鶉にふき家ほと
乃ささう

二何
東唱
井上村
古魯程

井上村
求古

井上村
魚眼

井上村
子雀

カヒ
子美

ナニハ
井眉

浪よる波のしつと下隅田川
そのしつとこれぬれを下し年竹

素直さし

古のこころしつと下隅田川
七五之ひつと下隅田川
まよふ事して休むる蜂の息は
いさおんしつと下隅田川
しつとに花よこれする雛
眠つたれまよと下隅田川

浪
支雪

但竹田
下玉

昭々
昔三

但竹田
西厓

但竹田
梅枝

高松
代蜂

をに
路雀

ヲハリ
岳絡

夏到ししよ松花散淋乃る
七夕もまぬ平しと家さく本程如
猿人乃し急は子出人海雲を
名月下夜をひしし月をくし
的々々々にする死すまら種
稚子とえ形水て門乃海を系
ふよ竹花葉うに何ししつむ
却しち子乃足平うる下家此は
穂芒平うるし脚と曲平乃り

母田巴
乙
鹿太
標介
曲里
危言
梅露
館友
乙の唐

妹より平白乃中乃乃夢
借つれぬ猿しよよ色小葉石
なふとやふ起ふよしと釣の秋
雛の鳥孔あし平る親りうり
系着やう免の古葉にまら月
とありましゆけし海しき山家ふ
ちるを乃ししあしきう牡母う
梅う雪や編うる夢のめ乃方
太刀魚ししん子とひく女乃

但味田
乙何
保水
城
几三
下雪
来親
果北
猪来

之河の三吟

給ふく〜ゆれし小まらふ雨くちる

東吟

先きあひし〜さし孔きりきり

万吟

と〜おれ明跡り〜るあ〜あ〜

三吟

只〜〜と風乃志ゆりて

明吟

撫ふ乃〜流孔あ〜れと舎ちるま

外吟

月乃あ〜ら〜福妻乃あ

強吟

鬼母ら〜麻のをとま〜りあ〜あ〜あ

明吟

林〜〜とす〜あ〜れあ〜ら〜

外吟

附あ〜ら〜〜乾乃〜あ〜の悔しき

強吟

男ら〜〜と水仙〜とま〜あ

明吟

梓もか〜るあ〜〜と〜〜あ〜ん

外吟

花売り〜せ〜と〜あ〜あ〜あ

強吟

名乃〜き月〜と川奈子〜と〜あ〜あ

明吟

あ〜あ〜小花の押合〜と〜あ

外吟

あ〜あ〜子〜と〜あ〜と〜あ〜あ

守山

地〜〜と〜き〜と〜あ〜あ〜あ

明吟

茶〜あ〜あ〜あ〜あ〜と〜あ〜あ〜あ

外吟

あ〜あ〜あ〜と〜と〜あ〜あ〜あ

明吟

雪より花垣根中一河此うらうわり

こころしあきも酒をく嘯く

皇白のちわあうらけらる牛乳子に

はつあくと車一引くこき

あひこし小あししきとすも色あき

皇座きさむよまほらあ比

あふ交大る乃り揃いしして

舟とく風子竹あへあく

村あやあつて月一鏡のあ

和

鳴

山

板屋

鳴

和

宅

山

強

酒りのあきれ白くさすしそ

あきしとれ舞臺所の能ちし

あやこきしとそりする人

招あすあつてあきし啼くちり

あきしとれ松花松花あき

あきしとれ御の役乃つふあき

あきしとれ雲あきしとれあき

あきしとれあきしとれあき乃山

あきしとれあきしとれあき乃

鳴

和

山

鳴

和

山

鳴

和

宅

門きして秋のちよひ〜
名月や何れとてころれおきとて
このえふ子守のちよひあし冬に梅
雀子乃生をえん〜麻を〜け
山の脊平松を氷室乃詠めうか
よふひある水やちよひと小一所
松山平声とめ〜してきあ〜し
花そ〜子他自慢や初茄子
え形平なる朝とものそ〜梢々あ

他子也 仙
他竹田 五
十ニハ 荷月
竹方
百半
竹
丹上林 梨亭
十ニハ 奇劇
寿山

多〜香に〜角の梅々素
自はふ盟れさた乃すきと那
紫柳乃身子さちりて夕涼〜
さろも〜味の〜唐〜志
雨此日を風乃日を〜鶯〜兼
元山やあま〜けあき月乃露
あ〜月あひ〜り梅子あ〜紫花唐
大教子夜と〜し〜時〜ち〜り
不つ〜と人〜ち〜り〜花〜那

但タケタ 雨柳
丹 社言
丹上林 有推
但イウ、 梅父
雨鶯
カサ、 橘電
イセ 橘電
丹サ山 五栢

田舎にありて

物之後のせましやあらしの所
 山と山とつらいつる夕月
 空を渡る鳥も人共月とれて
 くらせれやうらあふすらく
 しこ年くとして葉むとらけし
 よりとらむ 故にけむる中
 隠れても所はうきされぬ人
 子と傳ふる昔も城乃き
 今乃御世よ言此唯の人
 之 存、之 存、之 存、之 存、之 存

一る引むけてあふ供の流
 いつもあき強弱のまにあまわく
 たりしし曆おまらぬる秋
 うはくさしやかくて月も後におれ
 鹿みはたかく隣地や
 狐赤くさるるあつ水満り
 降しあきれよよ正月の雪
 とも形衣のはしりあふらん
 根乃くそと扱あくる昔
 之 存、之 存、之 存、之 存、之 存

古きこの春やうふいす采とく
永き日れぬふしや山乃く
母れなるや花子啼く鳥
為素とこ秋をさす明子なり

病中の吟

よきけハふるりきりくす
風平もまぬくと船をばるる
けし乃花月八日とく先加
みし夜乃足るぬらじ山此境

短歌や人まのそに鶯のさ
あつちのなをてりけり
蝶乃ふふしやうき
五月百や小海光賣り新つ
ゆき秋の喜ほふし松花菴
沫雪や名不れ松とんせふ
さけりらりと富士あつら
芒をそあつて秋や小草
摺鉢の冬れは秋風

母八須知
山

折圃

鳥

東菊

車丸

多美

花一

北化

山柳

花

刻

漫

松子

長高

木鳴

月ヶけ乃辨よさと浮うけ電
田のくるあきくや故この中
夕ゆふ紫むら人ひとけけろろと煙けむりせふ
併いっしょ乃なりややひひとと人ひとをを思おもひひししに
唐たう庭ていやや一いち方ほうととちち新あらたすすまま
たふたふんんててももささくくつつははええももひひたた浦うら
清せい香かうやや恋こひ子こ又またくくしし窓まど乃なり月つき
山さんささしし取と朝あ乃なり進すすままとと啼な雅みやび子こ
古ふるををままままととくくるる角かくややああぬぬぬぬ茶ちや

タレコ 炭すす乃
鳥とり良よし
万マン穀こく
丘イセ高たか
舊ふる翠すい
葵アヒ亭てい
鶯うぐいす山さん
ヤマト 舊ふる府ふ
角かく一いち

鳩たう牛う一いち而なり此こつつとともも一いちととひひくくる
一いちここままのの時ときををすすとと此こおおももりりか
黄わう多た子こ正せい月げつ候こう乃なりくくるるととくく茶ちや
山さんささししとと知ちつつてて老らうるる案あん山さん子こ加
牛う一いち鳴なるる甘かんああももきき子こ高たかくくれれりり
日ひまま中ちゆう下げぬぬるるひひああのの心こころ軽かろけけおおすす
子こ此こ日ひ也やしし小こ松しょう乃なり茶ちや此こ月つき也や
人ひと一いち平へい接せつ抄しょうよよくくてて此こ朝あのの林はやし
山さん色いろ此こ朝あよよくくししくくるる乃なり解かい

イナハ 大おほ蓋がし
佐さ南なん司し
土つち厚あつ
タチタ 郭かく子こ
唄うた糸いと
分わてて揚やう糸いと 扶たす牛う
佐さ戸と外がい
イナハ 李り杏ぎやう
カ 車くるま大おほ

うきうきと秋風きりり葉乃 燦
昔きくや白くもあつる寺孔 僕
る子風よいすこさうり地牡丹ふ
有明ハク中此着やう合歡の花
しーし此よさよ大きふ厚孔あう
衣文明きくくある戸口り家
山吹乃くくもくつもする垣根り水
そくやあ葉わくえ下免やすしめ山
うこ魚も写士もやあん雲乃家

サツて 琴剛
アハ 史
ナニハ 福
素忠
リ師 東西
二河 校園
スハ 雲葉
手白 耕
金井 路雄

と相えれハ頌く門乃はらさか
秋くや寸ときら水よさむあ物
谷川此形くあ門まる中落椿
みし、此れくや移りてや松乃色
新し月これさく秋をくれ安し
こらりしもせぬや此れ名の后乃月
登つ川岸此落すもあれりり
まのたまきありそのうれを此も
仕合せし夕走あさうやくく畑

但表 東湖
古道
桐井
二石 松居
丹コ 寧楽
丹井、山 之居
大山 梧朗
ナニハ 春来
春哉

いづかしき

初雪や海無き山々のしずかき

雅重

よきことくむるよみ我朝風

梅文

六丁由井子魚舟中送るらん

梅文

あふ作山守りあふ人あ

貞和

言園くつとくし月の大庭あ

歩文

志兵衛よ白ふ木岸乃花

花甚

も生れ眉よ垂るる秋花を

文暇

海)ききく人瑞し御佛

重

丹之川の静きしとまきし

文

瓦重しても臥せころろ

文

傾城しよふ名を流るりし

と

入梅子冬くれし梅垣の古

眠

くふし又推し直りしき古

林

子何とむさここの神一

赤畑

岸衣とるしと世庭の二結

花月

月とあゆらふし

梅

雪白

きりしつとまを花あれや

竹亭

草鞋つらつらしきの書み

踏山

まゆりしき海乃し碑よ

鳥籠

十日くれのありそりそ

月

きよきれつくききぬ何脈の味

脚

入たしき名れ堅物

白

籠余りる脚を極ししきり

履

くくりしき極し脚のちりる

如柳

時き神もき山れきききき

重

きひつめしききおちりし

き

心しき医論を園とをせり

山

堀井のありそりそり

松

秋もきし是れおの月のを

松

部領はのきききき

仙賀

ハ赤種は宿する

雅好

伽藍のききし一紙守

又

よこしき机をなれぬ古袴

柳

系しきしき品滴のき

竹

心乃しきしき枝おしきき

織

日と承ひての跡をのぞく

又

人此氣も去るは乃を空や群の夢

但しの八十番
竹也

離るるは河にそよぶのたぐり

未だ八十番
寺にや

花紅日下遊ふは夫といそぐき

泰山

清くはと夜を明てたり白牡丹

仙笑

うらみの上をふりまては夕梅の花

不深

むひのの鮎とやちと下りて川

歩也

夕白此若くは影を嘆かたり

歩也

夜此月あはれなれて形はゆり

夢を

白く雲の折るる岸に水仙花

寸と也

おとふし小柄な影を主とて

雪白

蝉さくは鳥乃口するあもあ

菊園

松風と啼くまののたりせと此夢

雅好

これほくの形をもえは雪の朝

後之文
吐嶺

あうこと虫をちとちと草此風

義風

苦多平海夜もしとち水仙花

まの也

山寺も詠かきけあやう枇杷の香

貞松

昔もなを一日も中し芥多の花
歩下平人ら此らる峰乃松
涼しきの高き平に遊下小く山
出てこれし本此を降し森乃月
山嶽く平氷もあらん谷清あり
秋風乃朝もさくさく山路ら
たけり秋やきき時のよれ程抱乃喜
あり喜れ毎日々けとあゆさる
月すしと交せし年のいりり

神傳 孝高
アキ 鳥老
任カキ 祥永
サカイ 葛丈
任ヨメ 号好
孤月
百意
丹上 巴多
山芝

涼しきやちとあれて寂つて死
しの散乃やとらと通ちりり
山元くして月とくく本くきり
田と前く一とん子秋きり
まうちして人ゆの振乃はらり
鶺鴒の石の尾とすら雪此新
亭崎に松風くくも田の那
坐しりて志りて園に暑きか
夏くくや熱くくく海に小秋雲

巨豆
蚕里
任ヨメ 香子
尚意
とら 妙凌
工ト 暁鳥
海甲
ノ 旦

豆鷹も、四つあつて秋のふれ
秋は日におかしく松のこころも
鴨乃羽にやまを渡して三日は月
うらひの写しにうらひ山乃走
あけやうの梅子さくらを門
卯にたねに遠の山をさふ
くし秋の情しと音に夕ありし
暮の月を月れ情やとて
来年秋のつとをし散らるる

其谷
巴石
年緒
杜宇
何頼
夕暮
三遊
文楽
嵐堂

晴小鴨とてくさくさ
石垣の沙のこころあり
秋は日の影のしほ梅のとき
るるにやとすよふし柿れを
きのあるさくらとて
まをさしをるはをさし
畑のうらやうとて雨に雲
くしやうの山をさする山の人
秋にん大くはをさする

東溪
三月
荷風
夕暮
古猿
浪費
栢翠
狂車
士朋

屯筆飾りおきさうり目曇
あす知し如仙のあてこらよき此香
秋れ萩やうらめしき月のみん
ぬれ着も馳きこりらん太
秋色や小敷の中此不云山
巻葉よちうにあうり喜の海
ふさふさおき新しき心さうら
それあふよも雲のあしきそ
層のひやう低くく低くあ

丹 文鳥

ラ 有

呂 川

吐 唇

行

萬 子

比 良

雲 金

百 子

大木ハ喜きまきましくあ月

皮 木 石

いささゆきしおきしひさしあきの草
嵐よも時をらうりのすくくお
おとあしあぐあはしおおれ帳
おれ中しに二交兩ううて秋をり
まのの名れあれくく輝の山
りまや雀もあし仙とすうて
妻あをり産をくくあふり

洛 紅 鳧

六

車 溪

赤 裡

百 英

毛 琴

不夜巻 髪 名

卯にむすし 猿籠つくるあしは
翁 猿籠のあしは 山崎の垣
山崎と一日を流てあくと川
川魚平給時を此とる子あふ
猿人のあふし 路を捨れあふ

あふし

よる波をまよふは 岸のあふし
林 いらん此うしろの啼し
卯日此月とあふし 河を流

非仙堂

定雅

美九

可舟

雨村

花雪

十丈

布雪

方起

腹のこけり日たあは 萩の生を
六月にねらうりや 雲を
このいれ柳まうらる 暮る舟
新月 路や 細るあ遠て
松のちもけらる きのめる 俣か
更る比 所まふは 月乃比
す日とまふま ちらるこ 山乃
山松のうつりひ じたるは 雨
あ一日あふ 柳ま 別海たり

猿現庵

土卯

角全

雪史

住山

古雀

星衣

東馬

徳孝

蒼帆

大さか

たのきむほし柳なとくくたや
夕やしや梅さうりぬみし木と
戸口とゆいしれとくくた落くま
藤さうとちさうのちさる夕か
舞入や田五しと足くしこま
てむしと照つてく日な流より
流れ行くなれ来るすとき
あま鳥れ鴨よ家より家の
七夕の歌くくくくくくく

梅香 ちり
十壺
谷山
十山
茶山
維石
月居
ふ際

新りの際なまきくわる藤子
はしあまやうに葉山子の
柳みちぬれく清くしまの
垣うや花れ古葉よ落れ
戸とゆいしれとくくた落くま
うつし梅く萩咲庭と
け風とあまの根とちさう
庭くくといひつきやれ
はら灯よんもるや

梅魚 梅價
木海
机山
菊岳
赤来
泰山
二層
圓叟
三層

毎々きく雨を聴く山使ふか
 けあふり雪は花あし子規
 故屋はさうし時あふるや浦の山
 このはや色坂の水まき風
 酔え屋すれぬ時よるうれ
 山やせぬ海もふくれぬ新
 麻むすや雨もあふる家煙
 蓮の花月新な咲しあひひかり

漢水 季謙 月蓬 花塘 霞屋 くれや 金吹 昌秋 あふ

むくく唐探歌

せうくや風新くして神敵
 恙ふれいらや師走に庭の苔

己鳴 律 茂良

おとれてはまの

かあささむすんく帰る芒か
 せうくや月をきぬうら
 二日酔とおさあけしてま
 松風乃拍子よあふる田植

アラミ 于當 比丸 儲史 千阿

世

客ありといえゆ。本はらみの故をうか

ヲハリ 月底

けり。今さうさの吉くろく那

洛 車越

海見つて日暮り。みぢれ小庭のふ

海 草家

る。丹のむすのふあり。冬 籠

冬 籠 白民

志りくも。むすのむすあり。冬 籠

保了

所とく。鳴るや。雪の夜。すく

素律

き。き。むすのふ。むすのふ。伊吹山

伊吹山 丸

京馬丸下
橋榮堂
高

